

精神神経薬理学専門医認定試験の内容

※2025年度より「精神科薬物療法専門医制度」から「精神神経薬理学専門医制度」へ名称変更いたしました。
今後も、下記の傾向を踏襲いたします。

【2025年度認定試験】

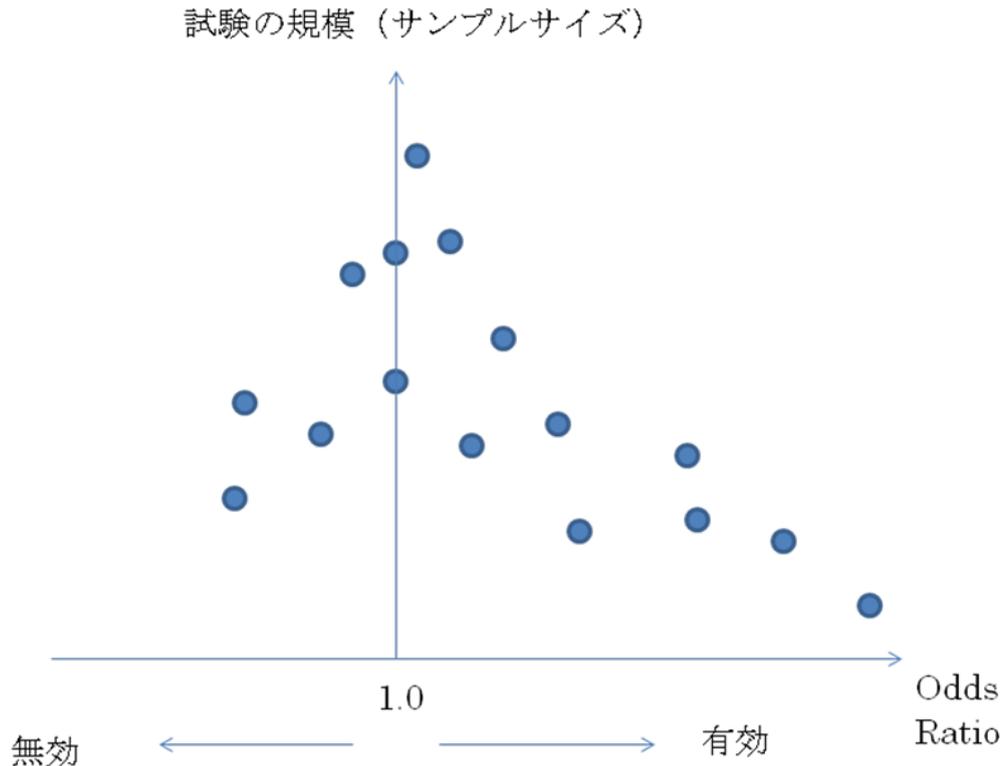
2025年11月12日（水）12:00～13:00 国立京都国際会館（BPCNPNP2025合同年会会場）にて実施。
試験問題はマルチプルチョイス式の 50 問で、満点を 100 点とした。

【2024年度認定試験】

2024年11月24日（日）11:30～12:30 慶應義塾大学医学部 信濃町キャンパス 東校舎2 階講堂にて実施。
試験問題はマルチプルチョイス式の 50 問で、満点を 100 点とした。

-
- 【マルチプルチョイス試験問題例題】 * 例題の解答および例題に関する質問は受け付けません。
* 実際に出題された問題は公開していません。

例題 1



ある薬物とプラセボを比較した研究が数多く報告されている。臨床試験の規模（サンプルサイズ）を縦軸に、プラセボに対するオッズ比を横軸にプロットしたところ図のようになった。これから推定されるのはどれか。

- a. 出版バイアスがある。
- b. 選択バイアスがある。
- c. スポンサーバイアスがある。
- d. 対象患者が不均一である。
- e. 試験デザインが不均一である。

例題 2

糖尿病に禁忌なのはどれか。すべて選べ。

- a. オランザピン
- b. クエチアピン
- c. クロザピン
- d. クロルプロマジン
- e. スルピリド

例題 3

37 歳女性。父がアルコール依存、14 歳の自殺企図から始まり人生の大部分が不幸と思っている。これまで長く仕事を続けたことがなく、現在はアルバイトをしながら大学院に通っている。男友達とも長続きせず、彼らは彼女のことを要求が多く、まとわりつくという。抑うつとパニック発作のため精神科を紹介された。

眠れないかと思うと翌日には一日中寝ていて、体が重く、失敗にこだわり、読書にも集中できず、自殺念慮がある。気分は環境に左右されやすく、心理士や友人の心遣いで気分が好転するが、逆に友人から冷たくされたりすると荒れた気分になり、家にこもり過食し人を避ける。

気分の高まった時期についてたずねられると、高揚する時期があり、そういうときには 4-5 時間の睡眠で十分であり、電話代が増え、考えが競いあっている感じがし、友人たちに「落ちつけ、ペースを落とせ」といわれた。

(DSM-IV-TR ケースブックの症例を短縮改変)

この症例に最も適切な薬物はどれか。

- a. リスペリドン
- b. パロキセチン
- c. イミプラミン
- d. アルプラゾラム
- e. リチウム

例題 4

トリアゾラムの代謝を阻害する薬物はどれか。

- a レボメプロマジン
- b カルバマゼピン
- c リファンピシン
- d パロキセチン
- e エリスロマイシン

例題 5

Thirty-eight treatment-resistant schizophrenia inpatients receiving conventional and atypical antipsychotics enrolled in a 10-week, double-blind, placebo-controlled study, in which they were randomized in a 2:1 ratio to receive adjuvant treatment with lamotrigine, gradually titrated to a 400 mg/day dose, or placebo. Of these, 31 completed the trial. Measures of clinical efficacy and side effects were determined every other week. Serum levels of amino acids were assessed at the beginning and end of the study. RESULTS: In primary last observation carried forward analysis, no statistically significant between-group differences were observed; however, the completers' analyses revealed that lamotrigine treatment resulted in significant ($p < \text{or} = .05$) reductions in positive and general psychopathology symptoms, as measured by the Positive and Negative Syndrome Scale. No significant differences in lamotrigine effects were noted between conventional versus atypical antipsychotics. Lamotrigine treatment was well tolerated, and glutamate serum levels remained stable throughout the study.

(Biol Psychiatry. 56:441-6, 2004 より抜粋)

治療抵抗性の統合失調症において抗精神病薬に lamotrigine を追加したときの効果として、この抄録から推論できるのはどれか。

- a. 気分の改善に有効な可能性がある。
- b. 陰性症状の改善に有効な可能性がある。
- c. 陽性症状の改善に有効な可能性がある。
- d. 非定型抗精神病薬に追加されたときに有効性が期待できる。
- e. 定型抗精神病薬に追加されたときに有効性が期待できる。